

## 【表紙】

【発行登録追補書類番号】 30 - 関東 1 - 2  
 【提出書類】 発行登録追補書類  
 【提出先】 関東財務局長  
 【提出日】 2019年12月 6 日  
 【会社名】 清水建設株式会社  
 【英訳名】 SHIMIZU CORPORATION  
 【代表者の役職氏名】 取締役社長 井上 和幸  
 【本店の所在の場所】 東京都中央区京橋二丁目16番 1 号  
 【電話番号】 03 - 3561 - 1111（大代表）  
 【事務連絡者氏名】 執行役員財務部長 兵藤 政和  
 【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋二丁目16番 1 号  
 【電話番号】 03 - 3561 - 1111（大代表）  
 【事務連絡者氏名】 執行役員財務部長 兵藤 政和  
 【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】 社債  
 【今回の募集金額】 10,000百万円

## 【発行登録書の内容】

提出日	2018年 8 月22日
効力発生日	2018年 8 月30日
有効期限	2020年 8 月29日
発行登録番号	30 - 関東 1
発行予定額又は発行残高の上限（円）	発行予定額 60,000百万円

## 【これまでの募集実績】

（発行予定額を記載した場合）

番号	提出年月日	募集金額（円）	減額による訂正年月日	減額金額（円）
30-関東 1 - 1	2019年 8 月28日	20,000百万円	-	-
実績合計額（円）		20,000百万円 （20,000百万円）	減額総額（円）	なし

（注）実績合計額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額（下段（ ）書きは、発行価額の総額の合計額）に基づき算出している。

【残額】（発行予定額 - 実績合計額 - 減額総額） 40,000百万円  
 （40,000百万円）

（注）残額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額  
 （下段（ ）書きは、発行価額の総額の合計額）  
 に基づき算出している。

（発行残高の上限を記載した場合）

該当事項なし

【残高】（発行残高の上限 - 実績合計額 + 償還総額 - 減額総額） - 円

【安定操作に関する事項】 該当事項なし

## 【縦覧に供する場所】

清水建設株式会社 横浜支店

（横浜市中区吉田町65番地）

清水建設株式会社 千葉支店

（千葉市中央区富士見二丁目11番1号）

清水建設株式会社 関東支店

（さいたま市大宮区錦町682番地2）

清水建設株式会社 名古屋支店

（名古屋市中区錦一丁目3番7号）

清水建設株式会社 関西支店

（大阪市中央区本町三丁目5番7号）

株式会社東京証券取引所

（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

株式会社名古屋証券取引所

（名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部【証券情報】

## 第1【募集要項】

## 1【新規発行社債（短期社債を除く。）】

銘柄	清水建設株式会社第26回無担保社債（社債間限定同順位特約付） （グリーンボンド）
記名・無記名の別	-
券面総額又は振替社債の総額（円）	金10,000,000,000円
各社債の金額（円）	金1億円
発行価額の総額（円）	金10,000,000,000円
発行価格（円）	各社債の金額100円につき金100円
利率（％）	年0.110％
利払日	毎年6月12日及び12月12日
利息支払の方法	1．利息支払の方法及び期限 (1) 本社債の利息は、払込期日の翌日から償還期日までこれをつけ、2020年6月12日を第1回の支払期日としてその日までの分を支払い、その後毎年6月12日及び12月12日の2回に各々その日までの前半か年分を支払う。 (2) 利息を支払うべき日が銀行休業日にあたる場合は、その前銀行営業日にこれを繰り上げる。 (3) 半か年に満たない利息を計算するときは、その半か年間の日割をもってこれを計算する。 (4) 償還期日後は利息をつけない。 2．利息の支払場所 別記（(注)9．「元利金の支払」）記載のとおり。
償還期限	2024年12月12日
償還の方法	1．償還金額 各社債の金額100円につき金100円 2．償還の方法及び期限 (1) 本社債の元金は、2024年12月12日にその残存総額を償還する。 (2) 償還すべき日が銀行休業日にあたる場合は、その前銀行営業日にこれを繰り上げる。 (3) 本社債の買入消却は、法令又は別記「振替機関」欄記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に別途定められる場合を除き、払込期日の翌日以降いつでもこれを行うことができる。 3．償還元金の支払場所 別記（(注)9．「元利金の支払」）記載のとおり。
募集の方法	一般募集
申込証拠金（円）	各社債の金額100円につき金100円とし、払込期日に払込金に振替充当する。 申込証拠金には利息をつけない。
申込期間	2019年12月6日
申込取扱場所	別項引受金融商品取引業者の本店及び国内各支店
払込期日	2019年12月12日
振替機関	株式会社証券保管振替機構 東京都中央区日本橋茅場町二丁目1番1号
担保	本社債には担保並びに保証は付されておらず、また本社債のために特に留保されている資産はない。

財務上の特約（担保提供制限）	当社は、本社債発行後、当社が国内で既に発行した、又は国内で今後発行する他の無担保社債（ただし、別記「財務上の特約（その他の条項）」欄で定義する担付切換条項が特約されている無担保社債を除く。）に担保提供する場合には、本社債のために担保付社債信託法に基づき同順位の担保権を設定する。本社債の社債要項において担保提供とは、当社の資産に担保権を設定すること、当社の特定の資産につき担保権設定の予約をすること及び当社の特定の資産につき当社の特定の債務以外の債務の担保に供しない旨を約することをいう。
財務上の特約（その他の条項）	本社債には担付切換条項等その他の財務上の特約は付されていない。担付切換条項とは純資産額維持条項等当社の財務指標に一定の事由が生じた場合に期限の利益を喪失する旨の特約を解除するために担保権を設定する旨の特約又は当社が自らいつでも担保権を設定することができる旨の特約をいう。

（注）１．信用格付

本社債について信用格付業者から取得した信用格付及び取得日、申込期間中に信用格付業者が公表する情報の入手方法は以下のとおり。（電話番号はシステム障害等により情報が入手できない場合の信用格付業者の連絡先）

株式会社格付投資情報センター（以下「R & I」という。）

信用格付：A +（シングルAプラス）（取得日 2019年12月6日）

入手方法：R & Iのホームページ（<https://www.r-i.co.jp/rating/index.html>）の「格付アクション・コメント」及び同コーナー右下の「一覧はこちら」をクリックして表示されるレポート検索画面に掲載されている。

問合せ電話番号：03-6273-7471

信用格付は債務履行の確実性（信用リスク）についての現時点における信用格付業者の意見であり事実の表明ではない。また、信用格付は、投資助言、販売推奨、又は情報若しくは債務に対する保証ではない。信用格付の評価の対象は信用リスクに限定されており、流動性リスク、市場価値リスク、価格変動リスク等、信用リスク以外のリスクについて言及するものではない。信用格付業者の信用格付は信用リスクの評価において信用格付業者が必要と判断した場合に変更され、又は情報の不足等により取り下げられることがある。信用格付業者は評価にあたり信頼性が高いと判断した情報（発行体から提供された情報を含む。）を利用しているが、入手した情報を独自に監査・検証しているわけではない。

２．振替社債

(1)本社債は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社債等振替法」という。）の規定の適用を受け、別記「振替機関」欄記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って取り扱われるものとする。

(2)社債等振替法に従い本社債の社債権者が社債券の発行を請求することができる場合を除き、本社債にかかる社債券は発行されない。

３．社債管理者の不設置

本社債は会社法第702条ただし書きの規定に基づき、社債管理者は設置されない。

４．担保権を設定した場合の公告

当社が別記「財務上の特約（担保提供制限）」欄により本社債のために担保権を設定する場合は、当社は、ただちに登記その他必要な手続を完了し、かつ、その旨を担保付社債信託法第41条第4項の規定に準じて本(注)6．に定める方法により公告する。

５．期限の利益喪失

当社は、次の各場合には、本社債について期限の利益を喪失し、別記「利率」欄所定の利率で経過利息をつけて、ただちに本社債の残存総額を償還する。当社は、本社債について期限の利益を喪失した場合は本(注)6．に従ってその旨を公告する。

(1)当社が別記「償還の方法」欄第2項に定める元本の支払いに違背したとき。

(2)当社が別記「利息支払の方法」欄第1項に定める利息の支払いに違背し、7日を経過してもその履行をできないとき。

(3)当社が別記「財務上の特約（担保提供制限）」欄に違背したとき。

(4)当社が、本社債以外の社債について期限の利益を喪失し、又は期限が到来してもその弁済をすることができないとき。

(5)当社が、社債を除く借入金債務について期限の利益を喪失したとき、若しくは期限が到来してもその弁済をすることができないとき、又は当社が第三者のために行った保証債務について履行義務が発生したにもか

ならず、その履行をすることができないとき。ただし、当該債務の合計額(邦貨換算後)が10億円を超えない場合は、この限りではない。

(6)当社が破産手続開始、民事再生手続開始又は会社更生手続開始の申立てをしたとき。

(7)当社が破産手続開始、民事再生手続開始若しくは会社更生手続開始の決定、又は特別清算開始の命令を受けたとき。

(8)当社の株主総会が解散(合併の場合を除く。)の決議をしたとき。

#### 6. 社債権者に通知する場合の公告

本社債に関して社債権者に対し通知する場合の公告は、法令に別段の定めがあるものを除いては、当社の定款所定の電子公告によりこれを行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を行うことができない場合は、当社の定款所定の新聞紙並びに東京都及び大阪市において発行する各1種以上の新聞紙(重複するものがあるときはこれを省略することができる。)にこれを掲載する。

#### 7. 社債要項の公示

当社は、その本店に本社債の社債要項の謄本を備え置き、その営業時間中、一般の閲覧に供する。

#### 8. 社債権者集会

(1)本社債の社債権者集会は、本社債の種類(会社法第681条第1号に定める種類をいう。)の社債(以下「本種類の社債」という。)の社債権者により組織され、当社がこれを招集するものとし、本(注)6.に定める方法により、社債権者集会の日の3週間前までに、社債権者集会を招集する旨及び会社法第719条各号に掲げる事項を公告する。

(2)本種類の社債の社債権者集会は、東京都においてこれを行う。

(3)本種類の社債の総額(償還済みの額を除き、当社が有する当該社債の金額の合計額は算入しない。)の10分の1以上にあたる本種類の社債を有する社債権者は、社債権者集会の目的である事項及び招集の理由を記載した書面を当社に提出して、社債権者集会の招集を請求することができる。

#### 9. 元利金の支払

本社債にかかる元利金は、社債等振替法及び別記「振替機関」欄記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って支払われる。

#### 10. 財務代理人、発行代理人及び支払代理人

株式会社三菱UFJ銀行

**2【社債の引受け及び社債管理の委託】****(1)【社債の引受け】**

引受人の氏名又は名称	住所	引受金額 (百万円)	引受けの条件
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目9番1号	10,000	1. 引受人は本社債の全額につき買取引受を行う。 2. 本社債の引受手数料は各社債の金額100円につき金37.5銭とする。
計	-	10,000	-

**(2)【社債管理の委託】**

該当事項なし。

**3【新規発行による手取金の使途】****(1)【新規発行による手取金の額】**

払込金額の総額(百万円)	発行諸費用の概算額(百万円)	差引手取概算額(百万円)
10,000	47	9,953

**(2)【手取金の使途】**

上記の差引手取概算額9,953百万円は、全額を神奈川県横浜市において建設中の賃貸オフィスビル(横浜グラウンゲート)の建設資金のために調達した借入金の返済資金の一部に2019年12月末までに充当する予定である。

**第2【売出要項】**

該当事項なし。

## 【募集又は売出しに関する特別記載事項】

### グリーンボンドとしての適格性について

当社は、グリーンボンドの発行のために「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2018」（注1.）及び「グリーンボンドガイドライン2017年版」（注2.）に即したグリーンボンドフレームワークを策定した。

なお、グリーンボンドに対する第三者評価として、株式会社格付投資情報センター（R & I）より、「R & Iグリーンボンドアセスメント」（注3.）において、当該フレームワークがグリーンボンド原則2018及びグリーンボンドガイドライン2017年版に適合する旨のセカンドオピニオンを取得しており、また、最上位評価である「GA1」の評価を取得している。

また、本社債の発行に当たって第三者評価を取得することに関し、環境省の2019年度グリーンボンド発行促進体制整備支援事業（注4.）の補助金交付対象となることについて、発行支援者たるR & Iは一般社団法人グリーンファイナンス推進機構より交付決定通知を受領した。

（注）1. 「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2018」とは、国際資本市場協会（ICMA）が事務局機能を担う民間団体であるグリーンボンド原則執行委員会（Green Bond Principles Executive Committee）により策定されているグリーンボンドの発行に係るガイドラインである。

2. 「グリーンボンドガイドライン2017年版」とは、グリーンボンド原則との整合性に配慮しつつ、市場関係者の実務担当者がグリーンボンドに関する具体的対応を検討する際に参考とし得る、具体的対応の例や我が国の特性に即した解釈を示すことで、グリーンボンドを国内でさらに普及させることを目的に、環境省が2017年3月に策定・公表したガイドラインである。

3. 「R & Iグリーンボンドアセスメント」とは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度を、グリーンボンド原則に掲げられた項目を含む評価基準に従って5段階の符号で評価し、債券の償還までモニタリングを行うものである。それに付随してグリーンボンドフレームワークに関してのセカンドオピニオンを提供することがある。セカンドオピニオンとは、発行体等が定めるグリーンボンドのフレームワークが、グリーンボンド原則等に則しているかを評価するものである。

4. グリーンボンドを発行しようとする企業や地方公共団体等に対して、外部レビューの付与、グリーンボンドフレームワーク整備のコンサルティング等により支援を行う登録発行支援者に対して、その支援に要する費用を補助する事業である。対象となるグリーンボンドの要件は、調達した資金の全てがグリーンプロジェクトに充当されるものであって、かつ発行時点において以下の全てを満たすものをいう。

(1) グリーンボンドの発行時点で以下のいずれかに該当すること

主に国内の低炭素化に資する事業（再エネ、省エネ等）

- ・ 調達資金額の半分以上又は事業件数の半分以上が国内の低炭素化事業であるもの
- ・ 低炭素化効果及び地域活性化効果が高い事業

- ・ 低炭素化効果 国内のCO<sub>2</sub>削減量1トン当たりの補助金額が一定以下であるもの

- ・ 地域活性化効果 地方公共団体が定める条例・計画等において地域活性化に資するものとされる事業、地方公共団体等からの出資が見込まれる事業等

(2) グリーンボンドフレームワークがグリーンボンドガイドラインに準拠することについて、発行までの間に外部レビュー機関により確認されること

(3) いわゆる「グリーンウォッシュ債券」ではないこと

### グリーンボンドフレームワークについて

当社は、グリーンボンド発行にあたり、グリーンボンド原則（Green Bond Principles）の4要件である、調達資金の使途、プロジェクトの評価と選定のプロセス、調達資金の管理、レポートに関する対応方針であるグリーンボンドフレームワークを以下の通り作成している。

#### 1. 調達資金の使途

グリーンボンドの調達資金は、以下の選定基準を満たす資金として全額を充当する。

事業区分	プロジェクト
グリーンビルディング	グリーン適格基準
	LEED認証におけるゴールドまたはプラチナ
	CASBEE建築評価認証におけるAランクまたはSランク
	上記のいずれか（WELL認証の取得が加わればなお望ましい）を取得すること。

本グリーンボンドの調達資金は全額、上記グリーン適格基準を満たすオフィスビルとして2020年2月竣工予定の横浜グランゲート（神奈川県横浜市）の建設資金のリファイナンスに充当する予定である。なお、横浜グランゲートは、「LEEDゴールド認証」および「CASBEE横浜・Sランク」の取得を目指すことに加え、テナントオフィスビルとして日本初の健康・快適性に配慮した建物・室内環境評価システム「WELL認証」の取得も予定している。

#### 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

グリーンボンドの調達資金の使途となるプロジェクトは、不動産開発事業を担当する当社投資開発本部と財務部との協議により評価・選定し、財務担当常務執行役員が決定する。

### 3．調達資金の管理

グリーンボンド発行による手取金の充当及び管理は、当社財務部が行う。

財務部にて、資金使途や残高を電子ファイルを用いて管理を行う。本グリーンボンドの調達資金は借入金の返済資金に全額充当するため、原則として未充当金は発生しない予定であるものの、対象プロジェクトへの充當時期の遅れ等により調達資金の未充当期間が発生する場合は、当社が資金と等しい額を現金及び現金同等物にて管理する。

また、対象プロジェクトへの充當時期の遅れ以外の理由により未充当金が発生することが明らかになった場合は、上記2．プロジェクトの評価と選定のプロセスに従い、グリーン適格基準を満たす他の環境改善効果の高いプロジェクトを選定し、手取金を充当する。

### 4．レポートニング

グリーンボンド発行1年後から償還までの期間、グリーンボンド発行による手取金の資金使途への充当状況及び環境改善効果について年次でレポートニングし、R & Iによるレビューを受けることとする。

レポートニング内容については当社のウェブサイトで開示する予定である。

横浜グランゲートへの資金充当状況は最初のレポートニングで開示予定である。調達資金の充当計画に大きな変更が生じた場合や、調達資金の充当後に計画に大きな影響を及ぼす状況の変化が生じた場合は、適時に開示する。

横浜グランゲートに関するインパクト・レポートニングの内容は以下のとおり。

- 取得認証状況
- エネルギー消費量（J）
- 温室効果ガス排出量（t）
- 水使用量（m<sup>3</sup>）
- 廃棄物排出量（t）
- リサイクル率（%）



### 第3【第三者割当の場合の特記事項】

該当事項なし。

### 第4【その他の記載事項】

該当事項なし。

### 第二部【公開買付けに関する情報】

該当事項なし。

## 第三部【参照情報】

### 第1【参照書類】

会社の概況及び事業の概況等金融商品取引法第5条第1項第2号に掲げる事項については、以下に掲げる書類を参照すること。

#### 1【有価証券報告書及びその添付書類】

事業年度 第117期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日） 2019年6月27日関東財務局長に提出

#### 2【四半期報告書又は半期報告書】

事業年度 第118期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日） 2019年8月1日関東財務局長に提出

#### 3【四半期報告書又は半期報告書】

事業年度 第118期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日） 2019年11月13日関東財務局長に提出

#### 4【臨時報告書】

1の有価証券報告書提出後、本発行登録追補書類提出日（2019年12月6日）までに、金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書を2019年6月28日に関東財務局長に提出

## 第2【参照書類の補完情報】

上記に掲げた参照書類としての有価証券報告書及び四半期報告書（以下「有価証券報告書等」という。）に記載された「事業等のリスク」について、当該有価証券報告書等の提出日以後、本発行登録追補書類提出日（2019年12月6日）までの間において生じた変更その他の事由はない。

また、当該有価証券報告書等に記載された将来に関する事項は、本発行登録追補書類提出日（2019年12月6日）現在においてもその判断に変更はなく、新たに記載する将来に関する事項もない。なお、当該将来に関する事項については、その達成を保證するものではない。

## 第3【参照書類を縦覧に供している場所】

- 清水建設株式会社 本社  
（東京都中央区京橋二丁目16番1号）
- 清水建設株式会社 横浜支店  
（横浜市中区吉田町65番地）
- 清水建設株式会社 千葉支店  
（千葉市中央区富士見二丁目11番1号）
- 清水建設株式会社 関東支店  
（さいたま市大宮区錦町682番地2）
- 清水建設株式会社 名古屋支店  
（名古屋市中区錦一丁目3番7号）
- 清水建設株式会社 関西支店  
（大阪市中央区本町三丁目5番7号）
- 株式会社東京証券取引所  
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）
- 株式会社名古屋証券取引所  
（名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第四部【保証会社等の情報】

該当事項なし。